

巻頭言

「Society5.0 そのさきにあるものは？」

Society5.0 という言葉をよく聞くようになった。内閣府の Web ページによると、Society5.0 とは、「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）」と定義されており、狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱されたものである。ビッグデータ、IoT(Internet of Things)、AI といった情報技術を高度に活用し、共有された様々な知識や情報から新たな価値を生み出し、今後の社会で予想される様々な課題の克服をめざしていくとされている。

これに呼応する形で、平成30年11月に文部科学省より出された「柴山・学びの革新プラン」でも、教師を支援するツールとして先端技術をフル活用することにより、より質の高い教育を実現していくことが求められている。また、これに続き、平成31年2月に出された高等教育・研究改革イニシアティブ（柴山イニシアティブ）では、数理・データサイエンス教育の全学部学生への展開が、大学教育の質保証・向上の具体的方策として示されている。

情報技術やデータサイエンスに長けた人材の育成は、経済界、産業界からの要請でもあるが、これらは単体で機能するものではない。特に地方大学に期待されている地域活性化、地方創生といったミッションの視点からすると、より地方に根ざした様々な専門領域についての専門的知見と深い洞察が必要であり、それらをより高め、深めるために、データサイエンティストと協働することができる人材の育成

総合情報基盤センター センター長 黒田 卓
(大学院教職実践開発研究科 教授)

が求められる。

さらに、2020年東京オリンピックを来年に控え、情報セキュリティについても、より一層の対策が求められている。特に大学等研究機関への攻撃は増大しており、ネットワークの入口だけでなく個人の端末まで含めて、十分な対策が求められている。新種のウイルス等を用いた攻撃に対しては、技術的な防衛では限界がある。利用者の心理的隙間を狙った攻撃等に対しても、十分に対応できる知識や、万が一攻撃を受けた際にリスクを最小限に留めるためのリスクマネジメントに関する知識も必要である。

これらビジョンの実現には、エネルギー問題も重要な鍵を握る。平成30年7月に出された「第5次エネルギー基本計画」では、再生可能エネルギーへの転換が謳われているが、現実問題としてかなりの難しさを感じずには得ない。1998年に出された石川英輔の小説「2050年は江戸時代」で描かれているような世界を迎えないためにも、一人ひとりが、何が大切なのかを考え、行動していくことが大切だろう。

総合情報基盤センターでは、2019年3月、新システムへの更新を行った。今回の更新では、予算も限られる中、大学構成員の皆さんがより安心して、さまざまな授業や研究等で安心してお使いいただけるよう、処理速度等の高速化やセキュリティ機能の増強、安定性の向上、サーバ群の一層の集積によるエネルギー消費の抑制といった設計を行っている。しかしながら、学内情報システムの安全な運用には、構成員一人ひとりの協力が不可欠である。

今後ともよろしくご理解とご協力のほどお願いいたします。